

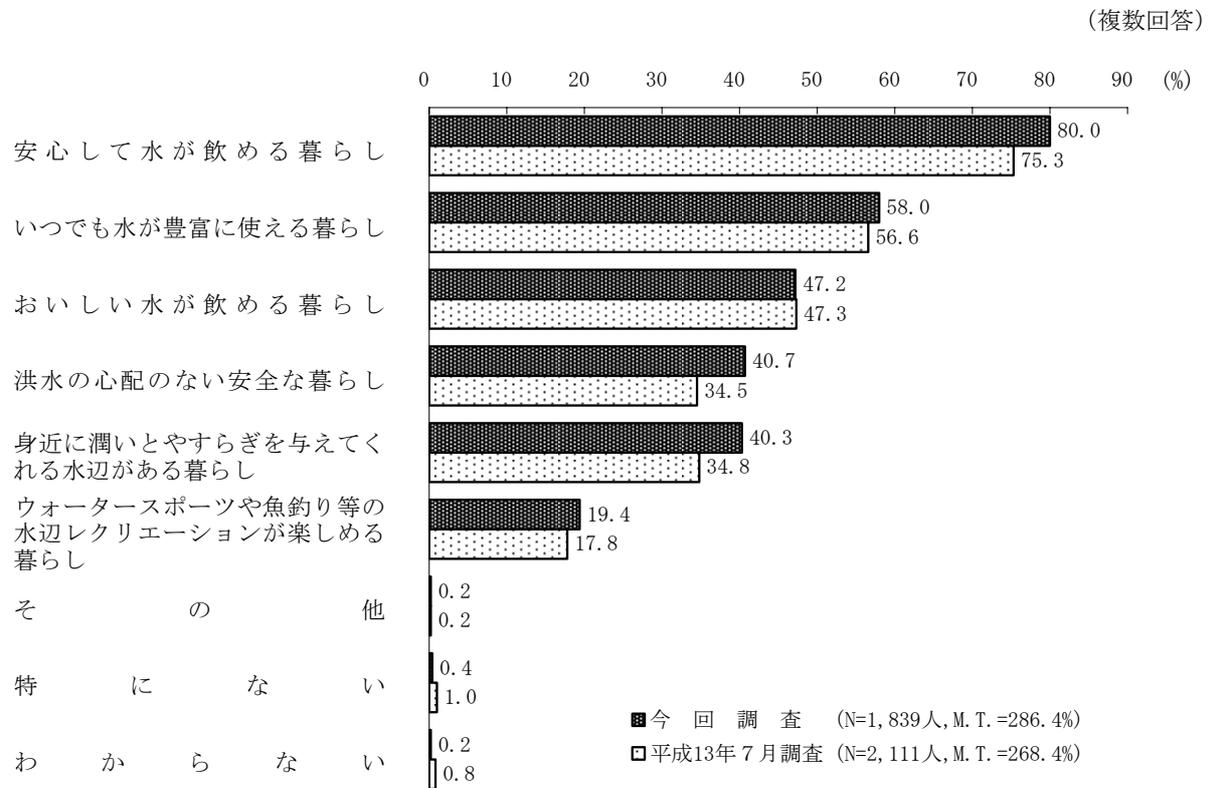
## 「水に関する世論調査」の概要

- 調査対象 全国 20 歳以上の者 3,000 人  
有効回収数 1,839 人（回収率 61.3%）  
調査期間 平成 20 年 6 月 12 日～6 月 22 日（調査員による個別面接聴取）
- 調査目的 水についての国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。
- 調査項目
- 1 水環境に関する意識
  - 2 水の利用に関する意識
  - 3 地球規模の水問題に対する意識
  - 4 行政に力を入れて欲しいこと
- 調査実績
- 「水に関する世論調査」（平成 13 年 7 月）
  - 「水環境に関する世論調査」（平成 11 年 8 月）
  - 「人と水のかかわりに関する世論調査」（平成 6 年 9 月）
  - 「人と水のかかわりに関する世論調査」（平成 2 年 7 月）
  - 「水資源に関する世論調査」（昭和 61 年 8 月） など

# 1 水環境に関する意識

## (1) 水とのかかわりのある豊かな暮らしとはどのようなものか (複数回答, 上位5項目)

	平成13年7月	平成20年6月
・安心して水が飲める暮らし	75.3%	80.0% (増)
・いつでも水が豊富に使える暮らし	56.6%	58.0%
・おいしい水が飲める暮らし	47.3%	47.2%
・洪水の心配のない安全な暮らし	34.5%	40.7% (増)
・身近に潤いとやすらぎを与えてくれる水辺がある暮らし	34.8%	40.3% (増)



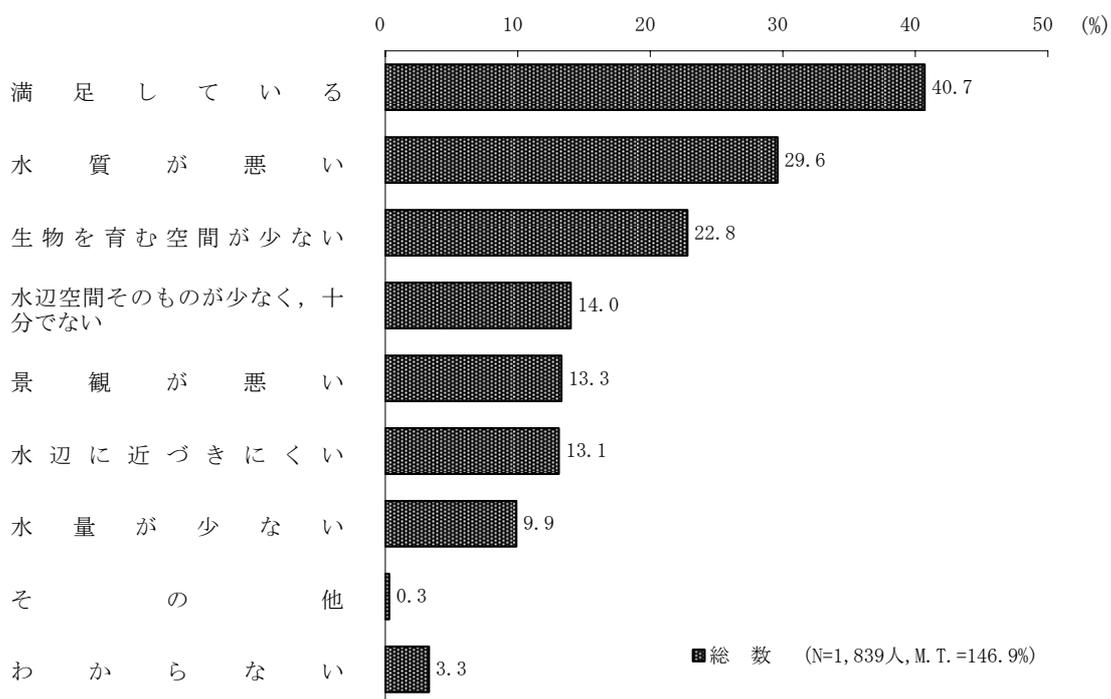
(2) 身近な水辺の環境に対する満足度

(複数回答, 上位6項目)

平成20年6月

- ・満足している 40.7%
- ・水質が悪い 29.6%
- ・生物を育む空間が少ない 22.8%
- ・水辺空間そのものが少なく, 十分でない 14.0%
- ・景観が悪い 13.3%
- ・水辺に近づきにくい 13.1%

(複数回答)



[参考1] 居住地域の水環境に対する評価

	該当者数	良くなった			悪くなった			変わっていない	わからない
		良くなった	良くなった	どちらかといえば良くなった	悪くなった	悪くなった	どちらかといえば悪くなった		
平成13年7月調査	人	%	%	%	%	%	%	%	%
	2,111	32.4	9.6	22.8	36.8	22.7	14.1	22.6	8.2

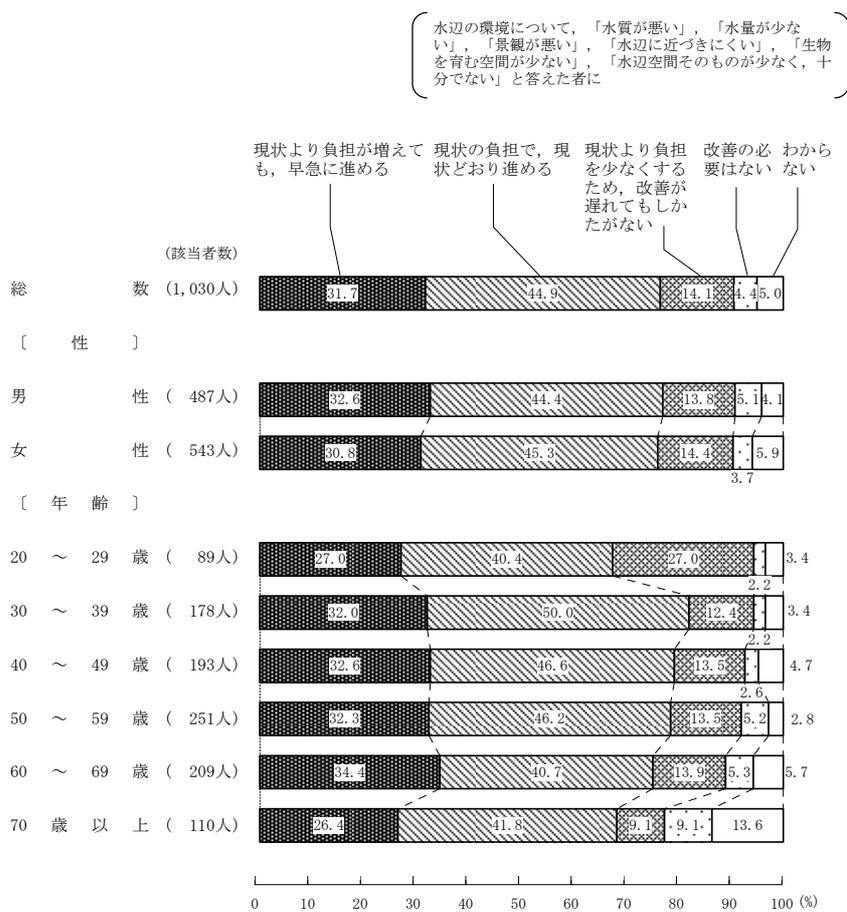
(注) 平成13年7月調査では, 「あなたがお住まいの地域の河川などの水質や水辺の環境について, どのように感じていますか。」と聞いている。

(身近な水辺の環境について「水質が悪い」、「水量が少ない」、「景観が悪い」、「水辺に近づきにくい」、「生物を育む空間が少ない」、「水辺空間そのものが少なく、十分でない」と答えた者(1,030人))

(3) 水辺の環境の改善方をどのように進めるのがよいか

平成 20 年 6 月

- ・ 現状より負担が増えても、早急に進める 31.7%
- ・ 現状の負担で、現状どおり進める 44.9%
- ・ 現状より負担を少なくするため、改善が遅れてもしかたがない 14.1%
- ・ 改善の必要はない 4.4%



〔参考〕 水質や水辺の環境の改善

	該 当 者 数	めえ 現 る て 現 在 の 負 担 が 進 増	現 状 ど お り 進 め る 現 在 の 負 担 で	現 状 よ り 負 担 を 少 く す る た め 、 改 善 が 遅 れ て も し か た が な い	改 善 の 必 要 は な い	そ の 他	わ か ら な い
	人	%	%	%	%	%	%
平成13年7月調査 〔居住地域の水環境に対する評価〕	2,111	28.8	47.1	11.9	4.8	0.7	6.7
良くなっている	684	22.1	56.3	11.0	5.1	0.3	5.3
悪くなっている	776	40.1	40.1	12.9	1.9	1.2	3.9
変わっていない	478	22.8	47.5	13.2	8.8	0.6	7.1
わからない	173	20.8	41.0	8.1	5.8	0.6	23.7

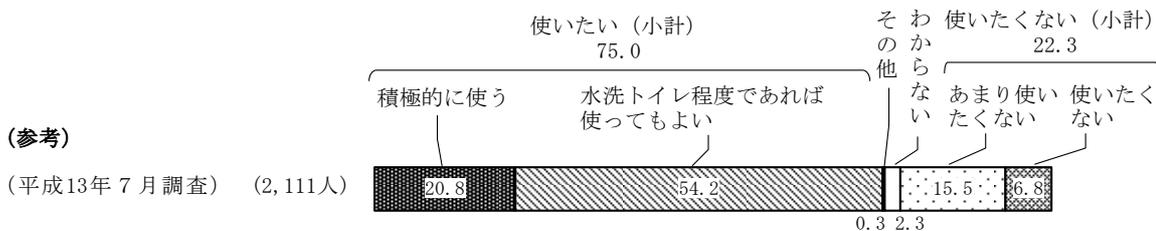
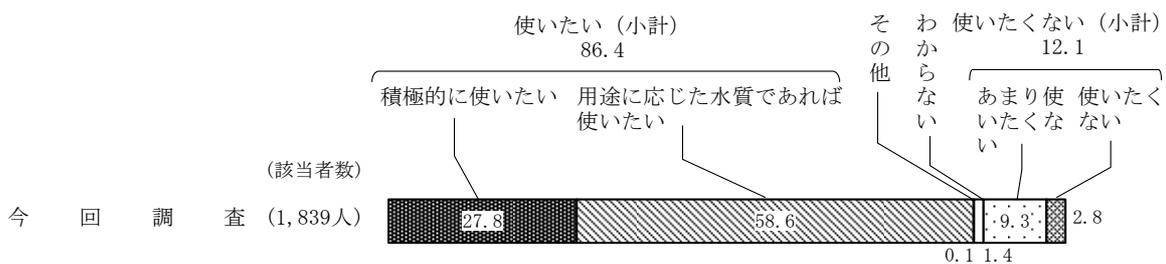
(注) 平成13年7月調査では、全員に対し、「河川などの水質や水辺の環境の改善を進めていくには、費用もかかり、国民の負担も必要となります。あなたは、河川などの水質や水辺の環境の改善はどのように進めるのがよいと思いますか。」と聞いている。

## 2 水の利用に関する意識

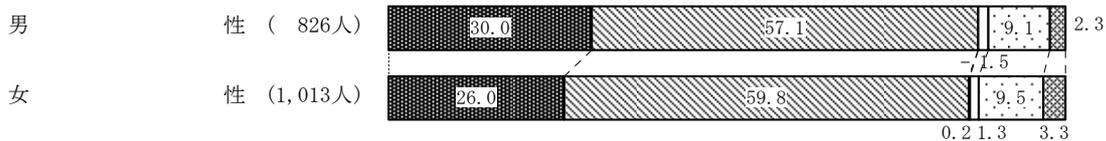
### (9) 雨水・再生水の利用について

平成 20 年 6 月

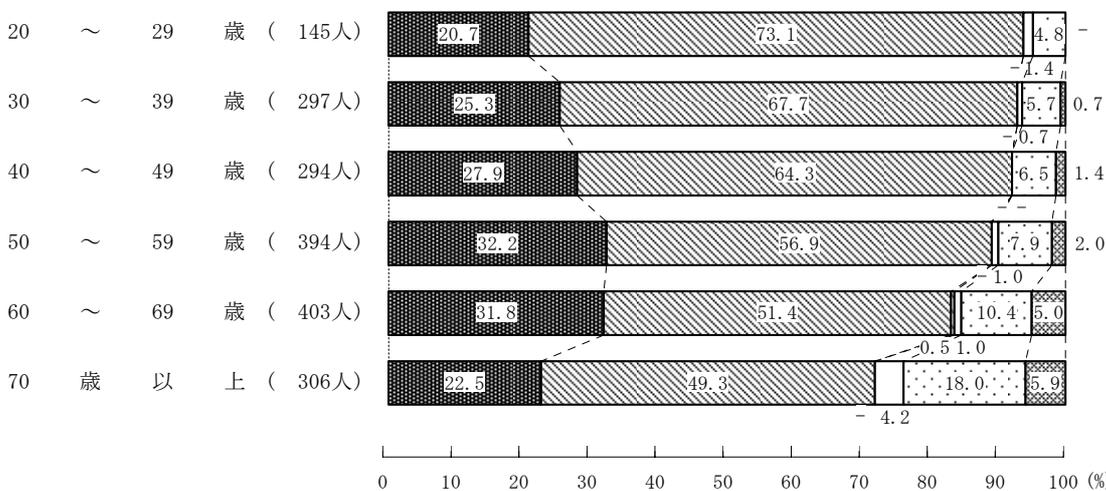
- ・ 使いたい (小計) 86.4%
  - ・ 積極的に使いたい 27.8%
  - ・ 用途に応じた水質であれば使いたい 58.6%
- ・ 使いたくない (小計) 12.1%
  - ・ あまり使いたくない 9.3%
  - ・ 使いたくない 2.8%



[ 性 ]



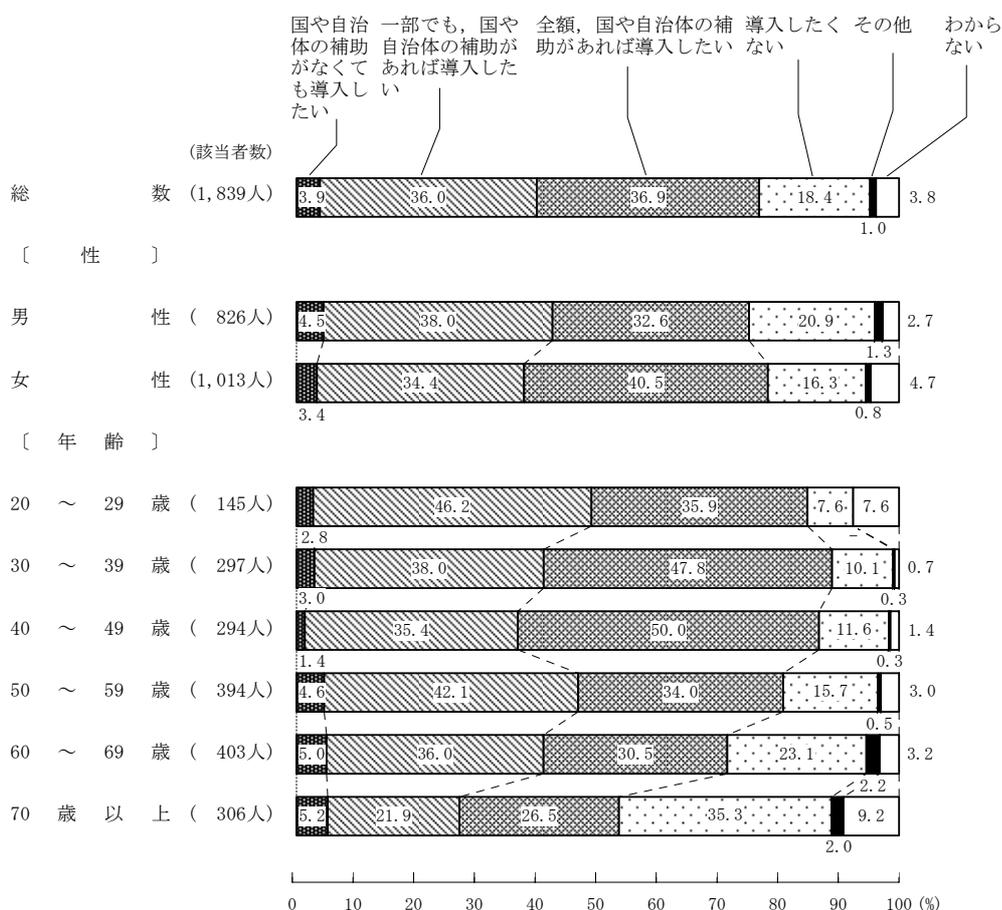
[ 年 齢 ]



(10) 雨水貯留浸透施設の導入について

平成 20 年 6 月

- ・ 国や自治体の補助がなくても導入したい 3.9%
- ・ 一部でも，国や自治体の補助があれば導入したい 36.0%
- ・ 全額，国や自治体の補助があれば導入したい 36.9%
- ・ 導入したくない 18.4%
- ・ その他 3.8%
- ・ わからない 1.0%



〔参考〕 雑用水や雨水の家庭への導入

	該 当 者 数	て全 も額 導個人 入負担 する であつ	て個人 も導 入負担 する が多少 あつ	ら個人 導人 入負担 しなが あるの な	導 入 し な い	わ か ら な い
平成13年7月調査	人 2,111	% 1.9	% 33.6	% 34.8	% 21.3	% 8.3

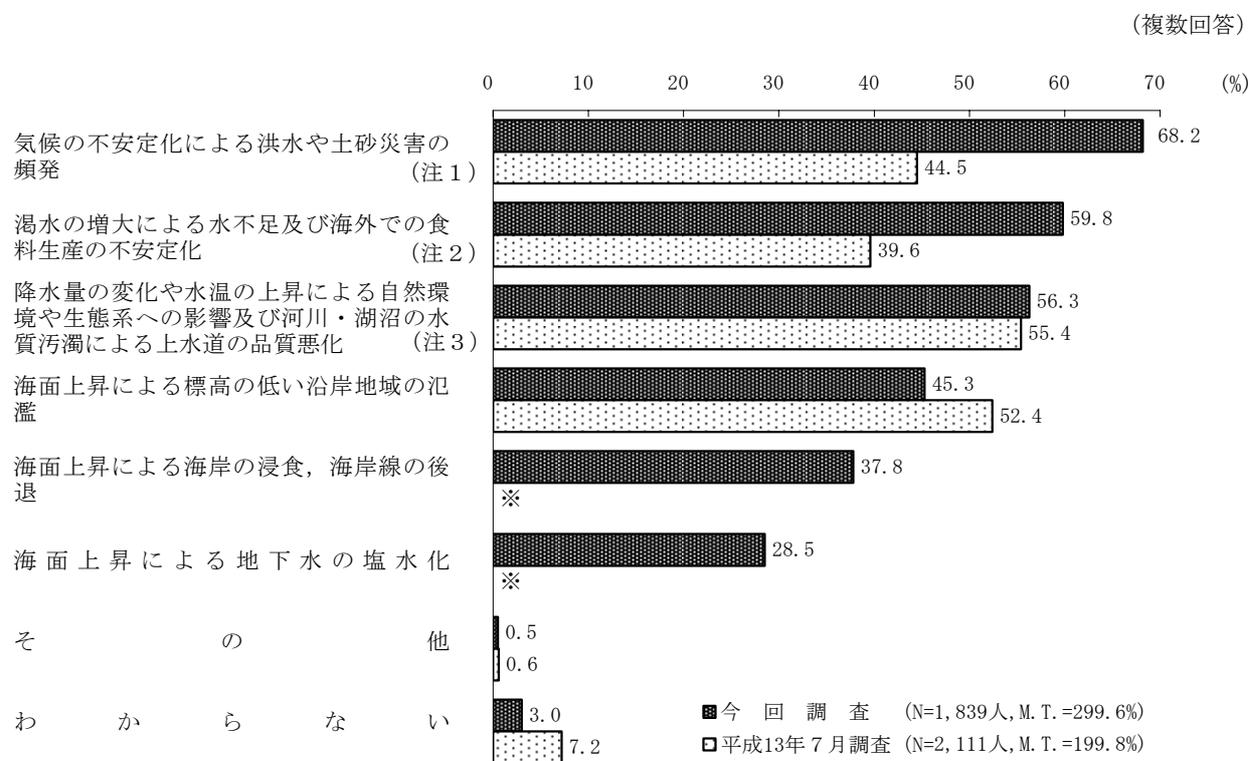
(注) 平成13年7月調査では、「雑用水利用や雨水利用は徐々に普及していますが，未だ全国の生活使用量の1%にも満たない状況です。普及を進めるためには，設備も費用もかかりますが，あなたは，家庭に導入したいと思いますか。」と聞いている。

### 3 地球規模の水問題に対する意識

#### (1) 地球温暖化による身近な水問題

(複数回答, 上位4項目)

	平成13年7月	→	平成20年6月
・気候の不安定化による洪水や土砂災害の頻発	44.5%		68.2%
・渇水の増大による水不足及び海外での食料生産の不安定化	39.6%		59.8%
・降水量の変化や水温の上昇による自然環境や生態系への影響及び河川・湖沼の水質汚濁による上水道の品質悪化	55.4%		56.3%
・海面上昇による標高の低い沿岸地域の氾濫	52.4%		45.3%



(注1) 平成13年7月調査では、「洪水や土砂災害の頻発」となっている。

(注2) 平成13年7月調査では、「頻繁な渇水」となっている。

(注3) 平成13年7月調査では、「降水量の変化による自然環境や生態系への影響」となっている。

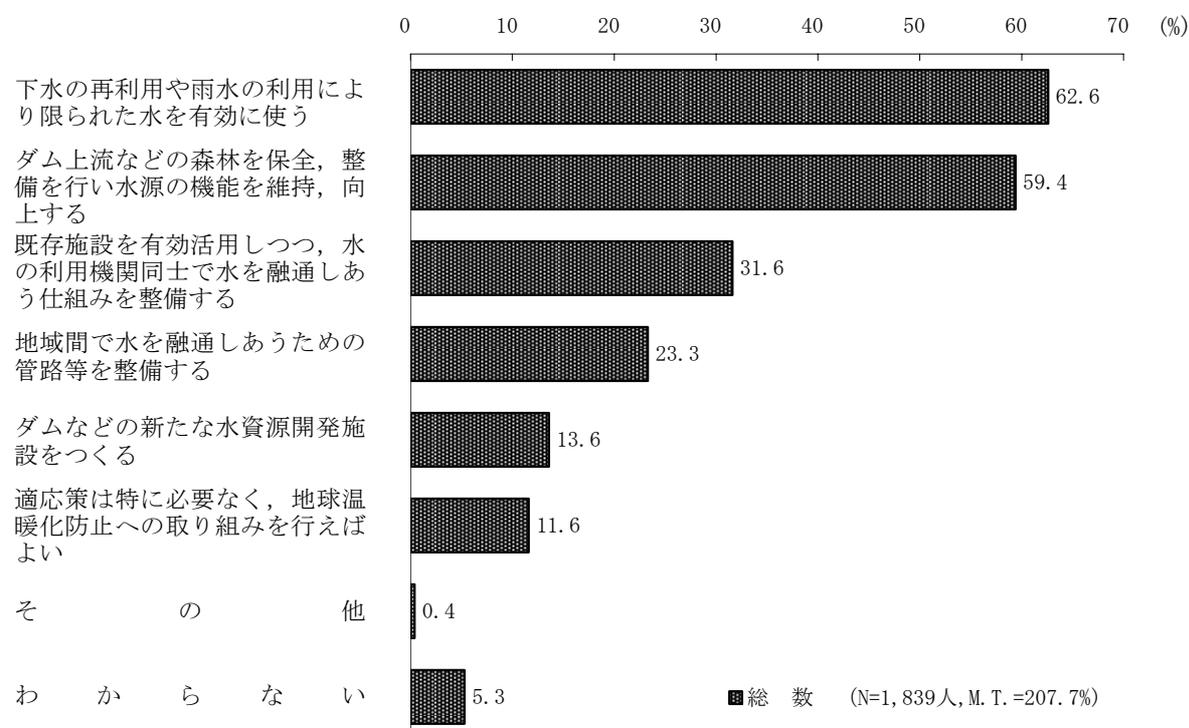
(2) 地球温暖化による渇水リスクへの対応

(複数回答, 上位4項目)

平成20年6月

- ・ 下水の再利用や雨水の利用により限られた水を有効に使う 62.6%
- ・ ダム上流などの森林を保全, 整備を行い水源の機能を維持, 向上する 59.4%
- ・ 既存施設を有効活用しつつ, 水の利用機関同士で水を融通しあう仕組みを整備する 31.6%
- ・ 地域間で水を融通しあうための管路等を整備する 23.3%

(複数回答)



#### 4 行政に力を入れて欲しいこと

##### (1) 行政に力を入れて欲しいこと

- ・洪水・土砂災害防止施設の整備
- ・水辺環境の保全と整備
- ・水の再利用の促進
- ・河川や湖沼の水質浄化対策

(複数回答, 上位4項目)

	平成13年7月	平成20年6月
洪水・土砂災害防止施設の整備	50.8%	53.1%
水辺環境の保全と整備	46.3%	52.5% (増)
水の再利用の促進	44.4%	52.0% (増)
河川や湖沼の水質浄化対策	50.1%	48.9%

(複数回答)

